

講演会

従軍画家 加納莞蕾の戦場体験 —中国山西戦線従軍と戦後の平和思想を結ぶもの—

平和を求め続けた画家 加納莞蕾 (本名:加納辰夫)。戦時中は従軍画家として戦地に赴きました。その体験が戦後の平和活動にどう影響したのか。

莞蕾の中国での足どりを研究してきた竹永先生のお話を聞きます。



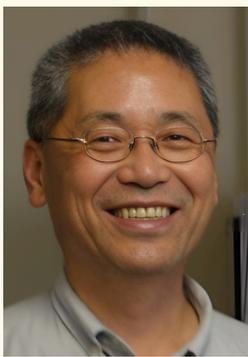
加納莞蕾「風陵渡高地占領」1944

2024年 **12月8日** (日)

時間 13:30~
(13時開場)

会場 布部交流センター
(加納美術館となり)

講師紹介



たけなが みつお
竹永 三男 さん

島根大学名誉教授
島根史学会会長
松江市史編集委員 他

著書：
『初代松江市長 福岡世徳』
『近代日本の地域社会と部落問題』
『地方長官会議に関する覚書』
『「行き倒れ」の近代史』

他多数

これまでの莞蕾についての研究

加納佳世子名誉館長の講演聴講を契機として加納莞蕾に出会い、美術館で「従軍手帳」の存在を知る。

2011年、東京国立近代美術館に展示されていた莞蕾の戦争記録画を観覧したことから「従軍手帳」の解読を始め、他の従軍画家とも比較しながら山西戦線での従軍活動の特徴を分析している。

開催中の企画展

生誕120年 人間、加納莞蕾

画家としての生涯を紹介するとともに、日本人フィリピンBC級戦犯助命嘆願から始まる「世界の恒久平和を求める活動」についてより分かりやすく展示し、人間像に迫ります。近年発見された作品も初公開！

2024年
会期 12月23日(月) まで

学芸員によるギャラリートーク

12/15 (日) 12/22 (日) 時間: 11:00~ / 13:30~
会場: 美術館展示室

